

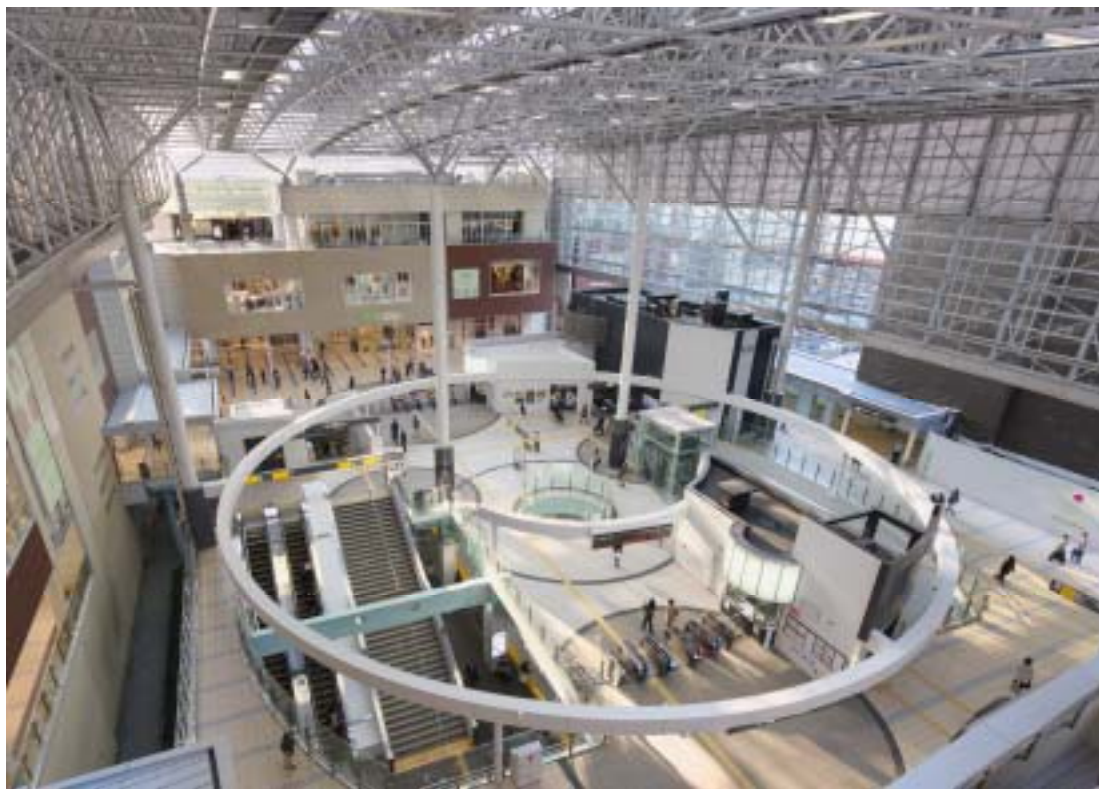
田園都市線たまプラーザ駅が、鉄道建築協会「最優秀協会賞」を受賞

東京急行電鉄株式会社

このたび、当社が2009年10月にリニューアルした田園都市線たまプラーザ駅が、社団法人鉄道建築協会による鉄道建築協会賞の作品部門で、最高の賞である『最優秀協会賞』を受賞しました。全国の鉄道事業者から応募された全75作品の中から選ばれたものです。

たまプラーザ駅では、10月7日にグランドオープンした商業施設「たまプラーザ テラス」を中心に、街の活性化を目的として、駅施設の改良ならびに駅周辺開発を進めてきました。既成概念にとられない取り組み「3層吹き抜け大空間」「コンコースの開口」等により『駅と商業施設の建築的融合』を図り、互いに機能を補完しあうことで『街の玄関口』となる魅力的な空間を目指しています。

今回の受賞は、駅を降りたときのダイナミックな空間のインパクト、ショッピングモールとの一体感、駅を挟んで街の南北を結ぶ回遊性、交通ターミナルの乗り換えの利便性など、多くの点が高く評価されました。当社はこれまでに、副都心線渋谷駅、東横線元住吉駅、東急病院（大井町線大岡山駅上部）他で鉄道建築協会賞に15回入選していますが、当社が単独で『最優秀協会賞』を受賞するのは今回が初めてです。



田園都市線たまプラーザ駅

「たまプラーザ駅」「鉄道建築協会賞」の詳細については、別紙のとおりです。

以上

【別紙】

「たまプラーザ駅」概要

- ・所在 神奈川県横浜市青葉区美しが丘1丁目
- ・敷地面積 約11,700㎡(鉄道敷地)
- ・建物規模 地上3階、地下3階建
- ・延床面積 約22,200㎡(鉄道敷地)
- ・設計 株式会社東急設計コンサルタント、株式会社大建設計
- ・施工 東急建設株式会社

<たまプラーザ駅の特色>

項目	内容
1) 駅と商業施設を繋ぐ大屋根	1) 駅と商業施設をひとつの「劇場」のような空間にするために、双方にまたがる4,000㎡の大屋根を架けることで一体空間を実現しました。また、コンコースの流動確保のため、立体トラスを採用し大スパンを形成、屋根トップライトから自然光が差し込む明るいコンコースとした。
2) ホームとコンコースを繋ぐ人工地盤の開口	2) 車窓から商業施設の賑わいを感じられる空間とするため、コンコース人工地盤の一部に開口を設け、吹き抜け空間とした。これにより、たまプラーザ駅を通過する鉄道利用者が同駅に興味を持ち、立ち寄りたと思える空間を目指している。また同時に、ホーム階の閉塞感の緩和、換気性能の向上、照明負荷削減(CO2約88,000kg-CO2/年削減)による省エネルギー策を可能にした。
3) 商業施設に対比する駅デザイン	3) 駅施設のデザインは、サークルをモチーフとしてシンプルなデザインとしている。これは商業施設が回遊性を持たせるために複雑な平面計画であることに対比して、駅という機能を強調させるためのデザインとしている。これには商業利用者が施設内から時折見える駅をランドマークとして現在位置を認識する機能も併せ持つ。また、高天井にサインや必要設備を設置するため円形梁を設け、意匠性と機能性の両立を図っている。
4) リフトアップ工法の採用	4) 既存駅舎とコンコースを使用しながら、その上部に大屋根・人工地盤と四方に商業施設を施工する難易度の高い工事。特に大屋根工事は、仮設資材の重量低減と旅客の安全確保から既存駅舎の直上でトラス構造を構築し、それを一夜で20m程度リフトアップする工法を採用した。

「鉄道建築協会賞」概要

- ・協会名称 社団法人鉄道建築協会(ARA)
- ・設立 1954年9月20日
- ・所在 東京都千代田区内幸町一丁目7番1号
- ・主務官庁 国土交通省

鉄道建築協会は、鉄道建築技術に関する調査研究と、内外の建築情報の交流により、知識の普及ならびに向上・発達を図り、社会公共の福祉を増進することを目的としています。

本協会では、鉄道建築におけるデザインおよび技術の向上に貢献したと認められる建築作品ならびに論文業績に対し、建鉄道建築協会賞を授与し、その業績を顕彰しています。

過去の入選作品



副都心線渋谷駅
(東京地下鉄(株)との共同受賞)



東横線元住吉駅



東急病院 (日本初の駅上病院)